

現在の状況と今年の成果は 代替わり直前の生徒会に取材

今期の生徒会の任期もまもなく終了する。生徒会メンバーの四人に「達成度」と共に任期について取材を行った。また、今月クラスルームにて配信された「女子トイレの生理用品設置について」のアンケートに関して中央委員会一般委員の一人に話を聞いた。

公約の達成度は55%

生徒会長の峯村菫花さん(3F)は「中央、HR、代議の役割を明確にする」「生徒による組織の協力によって大規模な企画を進める」の大きな二つの公約を掲げ、一年間力を

を尽くしてきた。「公約の達成度は55%ぐらいですね」と振り返る峯村さん。

具体的には、今年から「幹部会」という生徒会長、監査委員長、監査副委員長、HR委員長・副委員長、代議委員会議長団が月に一度集まる会



1年間錦城を支えてきた生徒会メンバーの4人に振り返ってもらった

を開催するようになったという。

一方で、大規模な企画については引継ぎがしやすい組織だということもあり、中央で「体育祭の開催などの何代分か時間がかかるような企画を進めています」と話す。

生徒の中からよく声がかかる「生徒会が何をやっているかわからない」という問題に関しては「提案が」通らなかったときに生徒たちを落胆させてしまうのがあまりよくないと思うので、情報をあまり流していません」と話す。議題は提案書という形で現在まとめている、11月ごろに発行を予定している生徒会報で経緯を説明するそうだ。全校に「細かく情報を発信していくことについてどう思いますか?」といったアンケートを取りたいと話した。

要望を提出する予定なのは「コートの自由化」「制服移行期間の廃止」「昼休みの体育館

使用を希望する予定なのは「コートの自由化」「制服移行期間の廃止」「昼休みの体育館

使用を希望する予定なのは「コートの自由化」「制服移行期間の廃止」「昼休みの体育館

錦城祭から一か月 実行委員会委員長の振り返り

錦城祭を終えて実行委員会委員長の黒崎大季さん(2I)は「ひとまず成功してよかったです」と話した。昨年よりも来場者が増えたことも嬉しく思っているそう。今年は飲食企画の増加、オープニングセレモニーを短縮して、企画準備の時間をつくるなどの改善ができた振り返った。一方で反省としては見回りが不十分で、各階に置いていたゴミ



「ひとまず成功した」

黒崎さんは今年、2つの公約を掲げていた。「オープニングセレモニーの改善」については達成度を95%と評価する。残りの5%には、オープニングセレモニーを圧縮しすぎ



題字 井口 文章

再刊 第497号

印刷・発行

錦城高等学校新聞委員会
編集室 2025

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面…今期を振り返る生徒会！
公約の達成度は？
二面…ハンセン病資料館で人権について考える
図書館スタンフラリー実施



今期を振り返る生徒会長

副生徒会長の神田陸翔さん(2G)は、スマホの使用規制緩和と、錦城祭での混雑緩和のための「Eduan」という順番待ちアプリの活用を考えていたという。しかし、当日は活用ができなかった。錦城祭でのスマホ使用の提案書が通らなかったのは、生徒から集めるデータ不足や先生方との相談不足が原因ではないかと振り返った。

神田さんは「Eduan」導入の達成度を30%と評価。外飲食企画の2Lや2Kでは導入できる状態にはまだ持っていない、生徒はPC、来場者はスマホを使用してもらう予定だったが、当日は利用してもらえ



「少しでも気持ちを変えられたら」

く、教室でのポスターの掲示など目に見える形でも伝えることができました」と語った。

「これからは生徒の皆さんが通いやすい学校にしていき

小貴さんは今年の公約の達成率は60%だと回答した。現

中央委員会からクラスルームで「生理用品の設置について」というアンケートが配信された。どういう趣旨でアンケートを行ったのか、聞いてみた。

取材に応じてくれたのは今月のアンケートを作成した中央委員会一般委員の金子優歩さん(2H)。「生理のときに生理用品があつたらいいな」と思ったことがきっかけだそう

だ。錦城高校でも設置できないかと考え、提案書の形でまとめることを目標としているとのこと。そして生徒の意見を資料とするために、アンケートを実施した。提案書は現在3年生や生徒部の先生に添削してもらっている。今回女子だけのアンケートになったのは、まず当事者である女子の意見を聞くためとのこと。

ただし、今回のアンケートは経緯や趣旨が生徒にも説明されないうまま実施された。こ

たいです」と話してくれたのは監査副委員長の小貴日菜子さん(2A)。

意見箱への意見が少なく、生徒の意見箱として機能していない現状から、意見箱に意見を入れてもらい、生徒の要望を多く聞くことでより過ごしやすい学校づくりを目指して一年間生徒会活動を行ったという。

学校をよりよくしようと提案書などを検討している今期生徒会だ。ただ、生徒への情報提供が少ないという声もある。

11月に配布が予定されている生徒会報や、生徒総会、生徒会選挙に注目していこう。

点について、中央委員会では「校則改正が先生たちに伝わる前に生徒に伝わってしまった」と思っている。変わらな

るかもしれない、不確定要素が多いです。提案が公認されてからでないといふ広めたいという暗黙の了解があります」とのこと。

錦城祭来場者アンケート 結果公開！(錦城祭本部実施)

ここでは錦城祭で本部が実施した来場者アンケートをお伝えする(データは全て実行委員会本部より)。数票差の接戦や同率3位も見られた一方で圧倒的な人気を見せつけた三年合同企画など、熱い戦いが見られた。(回答数431件)

クラス企画

1年	2年
1位 J組 69票	1位 G組 54票
2位 A組 66票	2位 D組 53票
3位 I組 42票	3位 L組 45票

3年	その他
1位 JKL組 115票	1位 生物部 46票
2位 C組 66票	2位 ダンス部 45票
3位 D組 42票	3位 写真部 33票

クラスTシャツ

1年	2年
1位 A組 72票	1位 L組 77票
2位 M組 35票	2位 G組 50票
3位 B組 34票	3位 J組 42票
L組 34票	A組 42票

3年	ちなみに新聞委員会の「新聞年代記(クロニクル)」は9票でした。投票してくれた皆さん、ありがとうございます。(風)
1位 D組 54票	
2位 I組 53票	
3位 F組 48票	

むらさき草

なぜ、古典を勉強しなくてはいけないのか。錦城生なら一度は考えたことがあるだろう。私もそう思っていたが、最近ちよつと考えが変わってきた。▼「つきもせずうき言の葉のおほかるを はやく風の 風吹かなむ」(後撰集・詠み人知らず)という和歌がある。自分についての噂が止まらない。早く収まってほしいーそんな心情を詠んでいる。「炎上がつらい」ということだ。「周囲の目」に振り回されるのは、現代の人だけではない▼もう一首。「来むと言ふも 来ぬ時あるを 来じと言ふを 来むとは待たじ来じと言ふものを」(万葉集・大伴坂上郎女。「来る」と言っても来ない。「来ない」と言われてもつい待つてしまうーそんな気持ちは、今も変わらない。友達に「行けたら行く」と返され、スマホを見ながら待つてしまう自分に重なる▼そういえば、どの学年も自分の進路を決めなくてはならない時期だ。私は中学生の時、進路を決める時期になっても自分が何をしたいのかはつきりしなかった。あれがやりた

いからどここの高校に行きたい」と言っていた親友。自分だけが取り残されているような気がした。そんな時期に古典の授業で「迷う」「揺れる」心が主題の短歌や俳句を先生に教えてもらい、千年以上前の人も同じように悩んでいたのだと思うと、不思議と安心できた▼昔の人の恋も、迷いも、怒りも、私たちと同じだ。だからこそ、古典を読むと心が通じる瞬間がある。それは、多分誰かの投稿を読んで「わかる!」と思う感覚に少し似ているかもしれない。古典は、時間を超えて人の心をつなぎ、今と昔の共通点を映し出す「鏡」のようなものだとい私は感じた。だから私は、もつと古典を読みたい。そこに、今を生きるヒントが隠れている気がする。(水)

軽音 秋ライブ!

10月11日(土)に軽音楽部による秋ライブが音楽室で行われ、全部で19のバンドが日々の練習の成果を見せた。今回で2度目のライブだったというバンド「IVY」はサンボマスターの「できっこないをやらんくちや」を一体感のある演奏で見事に歌い上げ、会場を盛り上げた。演奏を終えて、ベースの酒井悠翔さん(1E)は「緊張はしましたがとにかく楽しかったです」と笑顔を見せた。(風)



堂々とした演奏で観客を魅了

生徒会選挙候補者 出揃う

11月に行われる生徒会選挙に向けて候補者が出そろった。候補者の訴えに注目しよう(敬称略)。

「生徒会長候補」
神田 陸翔(2G)
「生徒会副会長候補」
神山 咲(1C)
平本 悠夏(1C)
畑中 龍弥(1G)
石井 裕那(1J)
鈴木 琉世(1K)
「監査委員会委員長候補」
水上 渚(1J)
「監査委員会副会長候補」
小林 怜翔(1B)
田原 凜乃(1C)
「錦城祭実行委員長候補」
和田 瑞樹(1H)

一票一票に責任をもって投票しよう。(風)

聞き取る力と話す力について考える 国立ハンセン病資料館で館長と語る

話し合いで理解を深める

東村山市の国立ハンセン病資料館で行われている「国立ハンセン病資料館で考える人権2025」の8月イベント「館長と話しそう、考えよう」が8月9日(土)、23日(土)に開催された。探究活動で紹介された前回6月の「副館長と考える人権」に続き、編集部は両日参加し、取材をさせていただいた。今回は23日の様子をお届けする。

館長「人の話を聴く」とは

8月23日(土)、国立ハンセン病資料館の研修室で行われたイベントに、社会人、大学生、高校生ら合計10人が参加した。前回8月9日の議論から続く形で、人権について様々な話題を議論した。国立ハンセン病資料館の内



参加者が自らの意見や質問を館長にぶつける

田博文館長は始めのあいさつで、資料館のお悩み相談コーナーで手紙をやりとりしたある少年の悩みに触れた。その少年からは、虫歯が痛いという悩みを受けたらしい。「虫歯が痛いのなら歯医者に行けばいい」と思ってしまう。実際は、親からの虐待を受けているという子どももかなりの必死なメッセージだったのですよ」と内田館長は振り返る。

隠されたメッセージに気づけるかどうか、どうしてほしいのかを見分けることができるかどうか、がコミュニケーションの上で大切だという館長。またその子は保護施設に預けられたが、その子自身は親と離れたくない結果的に荒れてしまった。内田館長は、人の話を聴くということはその人のダメージとその回復をどうやってフォローアップしていくかということとイコールである、と語った。



「ガンバリズム」とは

からでは」という意見が、また演劇・ダンス関係の仕事をしているという社会人からは「男性は仕事をやるのが当たり前となっていて、参加する時間とれないのかもしれない」という意見があがった。さらに「日本人は道徳や善意が好き」という話題で、善意で人を傷つけてしまう問題を議論した。内田館長は「ガンバリズム」という言葉を紹介した。館長によると「ガンバリズム」とは、頑張ればできると言っていることをやらせる

人権の様々な意見を交わす
その後、館長を交えて参加者同士も人権に関する様々な意見を交わした。まず8月9日の参加者から寄せられた質問が挙げられ、その質問について議論した。例えば「このような講義に参加する人はほとんどが女性で、男性が少ないのはなぜか」というテーマがあがった。参加者の女子大学生からは「性別による人権問題の経験が、女性の方が多い

ことであり、その結果様々な構造的な問題(法や制度の欠陥等)を覆い隠してしまうことがあるそうだ。館長も実際にハンセン病の取材をしたときに、そのことを思い出すだけでなく、体験を語るだけだとだからと遠慮なく「頑張ったって頑張らなくていい」と聞いてしまったという。



館長から様々なお話を伺った

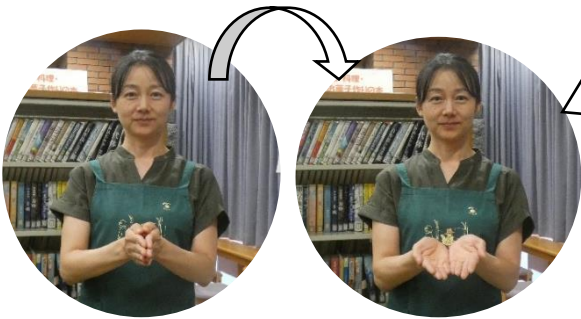
自分と他者は違うもの
議論の最後では、内田館長が、同じ経験でも受け取り方、今までの環境・過去の体験によつて感じ方・思うこと・自分ができることは全く違ってくるために、「自分と他者は違うもの、自分と他者は違うもの」

前回は6月と今回8月の資料館のイベントに参加して、人の発する言葉の影響を改めて感じた。内田館長の話から、相手や自分の意見を理解してもらうためにお互いに会話をすること、「共通の土俵」を確認することの重要性を考える良い機会となった。この記事を書いて、人の意見でも自分の意見でもよく理解し、してもらいように人と人の話し合うようにしていきたい。



手話を覚えよう！⑤

今回、手話を実演してくださったのは、司書の渡邊愛先生。第5弾で紹介するのは「本」という意味の手話。閉じた両手を、親指のほうから優しく開いていくというもの。読書の秋にぜひやってみよう！



手話について考えさせられるきっかけとなりました。手話を「耳の聞こえない人とコミュニケーションをとるもの」というだけのものとしてだけではなく、語学の一部として考えたいです。また、手話を学んでみたいとなりました。[渡邊先生]

錦城図書委員がおもてなし

図書館スタンプラリー実施

図書室2日間限定公開



自分だけのしおり作成

夏休み8月20日(水)・22日(金)の2日間、図書室で「東京・学校図書館スタンプラリー2025」が開催された。都内の中・高校図書館司書有志によるイベントで、他校や様々な人との交流を目的に各学校の図書館が公開された。当日は錦城にも図書館の違いを見に来た他校の司書さん、図書館限定の学校見学として来た保護者、日本を学ぶために来た

留学生など様々な人が来校した。図書室は委員が作った絵本のキャラクターなどの飾りで装飾され、錦城限定企画としてしおり作りとクイズを図書委員が企画し、実際に委員たちが来校者をもてなした。

色画用紙や飾りを使って装飾したものや機械でラミネートして作るしおり作りでは、参加者がオリジナルのしおりを作った。しおり作りを担当した図書委員の北嶋歩来さん(1A)と中島瑚都さん(1A)は、「様々な世代の方々と本を通じた交流ができて楽しかったです」来てくれた人に褒めてもらえてやりがいを感じました」と体験を振り返る。

委員が錦城図書室を説明
図書室の問題だけでなく、実



古本の街神保町を散策

高校生が選ぶおすすめの本など、地域の図書館と学校図書室の違いを言うことを意識したそう。参加者は図書委員の生徒に質問をしたり、図書室の写真を撮ったりと、充実した時間を過ごしていた。「クイズが面白かったです。しおり作りも優しく丁寧に教えてもらってのんびりできました。すごく楽しかったです」と満喫したようだった。その他夏休みには、図書委員有志による神保町古書店巡りが行われた。自由に古本を見ていくスタイルで、気の向くままに本を探し歩き、古本の香りに包まれる快い時間を過ごすことができた。(綿)

武蔵野のうどん VS 讃岐のうどん ~香川総文番外編~

この夏新聞委員会は香川総文に参加。本場のさぬきうどんを堪能したが、我が小平自慢の「武蔵野うどん」とどのように違うのか比べてみよう、錦城から歩いてすぐ(大沼交差点)、小平ロード途中の「手打ちうどんよしふじ」さんにお邪魔した。

今年で創業21年目となる「手打ちうどんよしふじ」の店主さん。子どものころから父がうどんを打つ姿を見て育ち、うどん屋を始めたそう。お店の名前は店主自身の名前が由来とのこと。お店の麺は、細めでつやつやのクリーム色、そして程よく噛み応えがある。こだわりは、どの工程でも機械を使わない完全「手打ち」であること。手打ちは打てる麺の量が限られてしまうし、体力勝負。一番大変だと感じる工程は、気温、湿度などによって麺に違いが起きないように、水分量や茹で時間を調節しなければならないことらしい。20年以上お店を続けていても納得がいけないときがあり、いまだに試行錯誤を続けているのだと店主さんは語る。つゆのこだわりは、出汁も返し(濃縮だれ)も全て手作りの手作業で、すべてのメニューにすべて違う返しを使用しているということ。つゆは味の肝になってくるので、いいものを使っているそうだ。しかし、麺もつゆのこだわりも「強いて言えば」で、特にこだわっているつもりはない、と謙虚な姿勢で語ってくれた。

錦城にもご縁があるうどん屋さんです
うどん屋をしていて感じるやりがいは、満足してくれたかどうか結果が見えること。気に入ってくれたらうれしいし、手打ちでうどんを作っているからこそその満足感があるそうだ。そのために、少ない盛り方はせず、おいしく食べてお腹いっぱいになってほしいという思いで提供している。

うどん屋をしていて感じるやりがいは、満足してくれたかどうか結果が見えること。気に入ってくれたらうれしいし、手打ちでうどんを作っているからこそその満足感があるそうだ。そのために、少ない盛り方はせず、おいしく食べてお腹いっぱいになってほしいという思いで提供している。

お店の一番人気は、一年を通して「肉汁うどん」、夏になると「ぶっかけうどん」。私たちは、お店一番人気の「肉汁うどん」と「きつねうどん」をいただいた。麺がちょうどいい噛み心地、そしてつゆとの相性抜群でツルツルと食べることができて、本当に美味しかった。店内には多くの人のサインが飾っており、地元の人々から愛されている「手打ちうどんよしふじ」さん。実は店主さんは錦城高校の卒業生なのだそうで、意外なところで縁がある。みんなもぜひ訪れてみてはどうだろうか。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。(椿)



こだわりうどんを小平ロードで



一番人気の「肉汁うどん」

- ▽体育学芸委員会 9月27日
- ▽球技大会実行委員会 9月27日
- ▽図書委員会 10月7日
- ▽代議委員会
- ▽選挙管理委員会
- ▽中央委員会 随時活動

- ▽ソフトテニス部 男子 8月19、20日 女子 8月14、15日
- 令和7年度東京都高等学校ソフトテニス新人大会 男子山川・西脇ペア ..ベスト64 女子和田・塩野ペア ..ベスト64
- ▽ソフトテニス部 男子 8月19、20日 女子 8月14、15日
- 第65回東京私学女子ソフトボール新人大会 1回戦出場
- ▽陸上競技部 第77回東京都高等学校新人陸上競技対校選手権大会 男子5000m決勝5位 女子5000m決勝5位
- ▽女子ソフトボール部 9月7日
- 第65回東京私学女子ソフトボール新人大会 1回戦出場
- ▽野球部 9月13日
- 2025秋季東京都高等学校野球大会1次予選 一次予選出場
- ▽バドミントン部 令和7年度東京都高等学校バドミントン新人戦I部大会 兼関東選抜大会東京都予選大会個人戦西東京 男子シングルス5ベスト2 女子シングルス1ベスト2
- 大会報告

大会報告